



Profile

- 京都大学農学部林学科 卒業
- 京都大学農学研究科林学専攻修士課程 修了
- 京都大学農学研究科林学専攻博士課程単位取得
- 修成建設専門学校 講師
- (株)アルプラン 造園部門主任研究員
- 芦屋芸術学院 講師
- 林まゆみ環境研究所 主宰
- 神戸芸術工科大学 講師
- (財)丹波の森協会丹波の森研究所 専門研究員
- 兵庫県立大学緑環境景観マネジメント研究科 准教授

緑を活かした環境や景観を、総合公園をはじめ街全体の活性化やこれからのまちづくりに活かすという研究を行っています。

Q1. 緑環境景観マネジメントとはどのような分野でしょうか。

主に植物を中心とした暮らしの環境を創造したり、それを維持管理したり、それから発展的にまた新たなものにしていくという、とても気持ちのいいそして自然にも優しい環境づくりが専門領域になります。特に1995年の阪神淡路大震災から、まちづくりの分野に景観や緑の環境をどんどん取り入れる動きがでてきたように思います。私は施策マネジメント領域に所属しており、地域や公園緑地のような空間をどのように造っていくのか、どのように使っていくのかに携わっています。

Q2. 研究は、日々どのように進めているのでしょうか。

研究は、学生たちや地域の方々と一緒に活動することも多く、最近では生田という地域にあるそばカフェ周辺の緑地の計画やソフトの提案だとか、「棚田物語」という冊子づくりを考えたりしました。学生や地域の方々と一緒にやっていくことはすごく楽しいです。また、学生たちをできるだけ現場に連れて行って、そこで見聞きしたものを自分の中で消化してほしいです。そんなことを研究としてまとめたいと思っています。しかし、研究は3年、5年、あるいは10年と続けてやると何か形が見えてくるというような例もありますから、長期的に取り組まないといけないところは少し大変かもしれません。

Q3. 研究を続ける中で、女性ならではの苦労はありましたか。

私は、子育てや両親の介護も若い時に経験しましたので、そういったトーンダウンするときにリカバリーできる制度がもっとあればいいなと常々思っています。ただ、好きなことなので続けていると楽しいし、それが社会にも貢献できていると感じる時もありますので、続けてこれたと思います。

Q4. これから先生のように女性研究者を目指す方に、メッセージやアドバイスをお願いします。

この研究科は専門職大学院といい、高度な職業人を養成することが目的ですが、研究と実務はきっちり分かれているものではないと思います。色々なことを経験しながら、自分の道を見つけて欲しいと思います。自然や環境に子どもときから触れ、大人になってもそれを大事にする、暮らしを楽しみながら守っていく、そういった人材を育成したり社会をつくっていかれたらと思っています。

Message

好きなことなら楽しく続けられる。
色々な経験から自分の道を。

